

報 会 うでまくり

一般社団法人

福島県女性経営者プラザ

設立三十周年 記念特別講演会を終えて

一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

会長 菊池 美保子

デヴィ夫人をお迎えしてのFJP設立三十周年記念特別講演会「人生のモチベーション〜生きる秘訣〜」は、会員の皆さまの事前準備からチケット販売、当日の各委員会の役割分担、ご来場の皆さまへのきめ細やかな対応により無事終了することができました。平日の夜にも関わらずたくさんの皆さまにお集まりいただき心から感謝申し上げます。

始めに上映されたデヴィ夫人の波乱万丈の人生は、私自身も知らなかったことがたくさんあり、驚きと共にその行動力と決断力に感服いたしました。

キラキラと眩い素敵なおドレスでご本人が登場されると「三十周年おめでとうございます。四十周年記念講演会も是非お招きくださいね」と思いました。

あたたかい言葉を頂戴し、次世代の女性経営者育成のために招待した最前列に座る女子学生たちに向けては、「なぜは成る為さねば成らぬ何事も」「夢はみるものじゃない！ 掴み取るものよ！」「好奇心と探求心を大切に、本をたくさんお読みなさいね」と力強いエールを送っていただきました。

その後の食事会では、常磐ものの太刀魚を「このお魚はなあに？ とても美味い」と小骨が多い魚をきれいに召し上がっていました。講演でも「まだ行ったことがないところに行ったり、まだ食べたことがないものを食べたりすると元気になるわ」とお話されていましたが、お元気の秘訣は、しっかりお酒も飲んで、しっかりお食事をされ

◆ FJPの目的 ◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

るからだをつくづく思いました。

「女性経営者の皆さんのお仕事は何をなさっているの？」とお聞きになったので、皆さんに自己紹介をしていただきました。すると「女性で運送業をやっている方がいらつしやるの？」「皆さんいろいろなお仕事をされているのね」と、驚いていらつしやいました。

終了後は、歩いて駅まで向かいましたが、ヒールの高い靴で階段もスタスタと上って行かれるお姿は、とても素敵でカッコ良かったです。

後日、「講演会では大変あたたく迎えられ感謝しております。皆さまがいろいろな職種や分野で明るく頑張っておられることを知り、とても嬉しく存じます。」と、お手紙が届きました。

私たちFJPとデヴィ夫人を繋いでいただき、多大なるご尽力を賜りました株式会社ケイビ代表取締役社長大山三起夫様、専務取締役大山勇起様とご臨席いただいた田母神俊雄様に改めて感謝を申し上げます。

● うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！



10月定例会

2024年10月8日(火)
場所…Coba KORIYAMA(郡山市)

私の事業承継

～事業連携で雇用継続を～

基調講話 会 田 和 子(会員)

元・(株)いわきテレワークセンター創業社長

◆「働く」意識を変える

「テレワーク」という言葉が最近注目されている。私が1994年新会社の社名につけた頃とは大違い。ここ数年は国の肝入りで毎年11月にテレワーク月間が開催され、多くの企業団体が参加するようになった。「働く、を変える」がテーマで、テレワークをテーマとした大臣表彰等の取り組みに関心が集まるようになった。私が社名に込めた狙いは、まさに「働く」を変える、であった。新しい会社設立で最も心配になったことは、地元でこれから一緒に働くようになる人の働く意識であった。



会田和子 会員



先輩会員の話を熱心に聞く会員

ビジョンや事業の柱を具現化していく上で、地元人材の顔が見えない。労働に対する偏見が根強く残っていて、明日をも知れないベンチャー企業で本気で働いてくれるのか。必要な技術習得に取り組んでくれるのか。働く意識を変え、挑戦的に働いてくれる人材を求めたいということ、意識変容に刺激を与えるとして、テレ(離れて)とワーク(仕事)を組み合わせた造語「テレワーク」を社名とした。幸い、女性や若者が多様な

働き方に賛同し、支援してくれた。テレワークでは情報通信技術(ICT)活用が前提となる。テレワーカーとの協働力を強みに、首都圏企業からのテクニカルサポートという専門性の高いコールセンターをはじめ、様々なアウトソーシング業務(BPO)を推進することができた。

◆時代変化と競争

BPO事業は技術やネットの進歩にさらされ、まさに時代変化に負けないような企業力を持たないと衰退する。厳しいが、現場が自己実現への意欲を忘れないければ乗り切れる。一人当たりの生産性も良くなる。社長は現場からの情報把握に努め、顧客との信頼を深め、継続の道を探る。早めに引退するためにも、組織の透明性と企業価値をあげることが最優先である。目標を見失わず肅々と進めてきたからこそ、私自身は引退のチャンスを感じたと思う。そして会社も転機が必要な時期を迎えているのだと感じた。私が短期で決断した理由は、次の5つの要因が大きい。①社長の限界(能力も体力も)、②地方での企業経営の限界(これまでの30年、大都市の業務機能移転は進まず、地方はまだまだ都市の下請け的存在)③事業推進の限界(新規技術対応の社内整備、新

規商品サービス等の開発面の投資資金不足)④危機意識の欠如(特に社歴の長い幹部社員ほど安定志向)⑤銀行資金調達の不安(無借金の方が理想)。

◆グループイン後の未来

今回は株主の利益よりも社員のメリットを最優先した。雇用も事業も継続されたが、他方、人事管理も社員教育も働くルールも全て従来とは違う。柔軟に対応する意識と行動がなければ脱落してしまう。どうしたら、誠実に企業成長に貢献できるか。未来を築く人財として生き残れるか、新たな試練が始まったといえる。引退した社長は何も支援できないし、何かをしてはいけないと感じている。

創業者としては、仕事と生活の両立で豊かさを追い求めてきたテレワークの「心」だけが残るということで良いと思っている。

会田和子

いわき市出身、明治大学経営大学院修了。金融経済専門出版社勤務を経て、研究所設立。テレコム関連研究活動等の傍ら、旧郵政省、いわき市等有識者活動に従事。1994年地元にて「いわきテレワークセンター」設立に参画、代表取締役就任。2021年5月デロイト・トーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社にてグループインのため代表退任。社名をデロイト・トーマツテレワークセンター株式会社に変更。現在、日本テレワーク協会副会長、地域産業おこしの会理事長、大学非常勤講師等。

12月 定例会

2024年12月10日(火)
会場：郡山ビューホテルアネックス
コシヨシ・ドール



交流・広報委員会のみなさん



プレゼント
戴きました〜



総務委員会のみなさん

12月10日、郡山ビューホテルアネックス13階コシヨシ・ドールにて12月の理事会並びに定例会が開催されました。ドレスアップして参加された会員さんもので、会場はいつもまして和やかな雰囲気でした。女性らしい華やかな前菜から始まったランチコースを楽しみ、そのあとはクリスマスの時期に合わせ、それぞれが持ち寄ったプレゼントをくじ引きでの交換会。お楽しみの後は、10月に開催したデヴィ夫人をお迎えしての

FJP創立30周年記念特別講演会の反省会が行われ、総務、事業、交流・広報の委員会ごとに問題点と改善策が話し合われ、それぞれ発表されました。会員の尽力のお陰で大半のお客様に満足して頂きましたが、主な反省点として、未就学児に対する対応／公演中の私語／撤収の際の段取り／情報共有の不足などが挙げられました。これを踏まえ、次回の活動に生かしていくことも確認されました。

秋を楽しむ間もなくやってきた2024年の冬。まだまだブラッシュアップするところもありましたが、達成感と共に皆様と新しい年を迎えられるのを楽しみに、12月定例会を締めくくりました。

2025年1月14(火)

1月 定例会

音楽は心を照らす優しい魔法

soyoka (紺野微佳)さん

会場：ネーブルシティもとみやaube

新年最初の定例会は、soyokaさんのピアノ弾き語りによるミニコンサート。Fly me to the moon, you are my sunshine, what a wonderful world や オリジナル曲 cheer up. 英語と日本語を織り交ぜた、いとしのエリーク など、美しい歌声とピアノに心地よい時間を過ごしました。後半は会員一同初めての経験となる音楽療法の説明とセッション。音楽療法が第二次大戦時、アメリカで傷病兵の心のケアを目的として広がり学問として確立したこと。日本では日野原重明先生が日本音楽療法学会設立に尽力されたことなどをお聞きしました。お楽しみのセッション、まずはドラムサークル。テーブルに

ずらりと並べられた珍しい打楽器を音出ししながら紹介。みなさんが好きな楽器を手に持ち、輪になりsoyokaさんの合図に合わせて音を出すと、なんだか素敵な音楽に…。会員の楽しい笑い声も加わり、よりステキなハーモニーが完成しました。次に登場したのはハンドベル。アイコンタクトでハンドベルの音を次の人につなげていきます。少しリズムが狂いながらも音がつながる楽しさにまたもや一同笑いの渦。最後は、おおシャンゼリゼの替え歌、おお2025でおひらきとなりました。菊池会長より「こんな楽しい時間を過ごし、今日は帰って姑に優しくできます」というお礼の言葉とともにsoyokaさんに花束が贈呈されました。



Soyokaさん



特集

FJP 30周年記念特別講演会 2024年11月28日(木)
会場…けんしん郡山文化センター中ホール(郡山市)

「人生のモチベーション」

～生きる秘訣～

講師…デヴィ・スカルノ夫人

11月28日にデヴィ夫人をお迎えして開催したFJP 30周年記念特別講演会は総勢約780人が来場。次世代の女性経営者育成のために招待した県内の女子学生にも多数参加いただき、盛會に終えることができました。当日は来場者への感謝の気持ちを込めた菊池会長からの挨拶から始まり、続いてデヴィ夫人の波乱万丈の人生を収めた特別映像が放映され、その余韻冷めやら

ぬ中、ボレロの音楽と共にデヴィ夫人が登場。会場は大きな拍手で包まれました。デヴィ夫人から講演に先立ち30周年のお祝いやこれまで継続してきたことへの労いの言葉、そして今後40年、50年と続いた際にはまた是非ご招待をいただきたいとのありがたいお話から講演が始まりました。

FJP 30周年記念特別講演会
「人生のモチベーション」

～生きる秘訣～

講師：デヴィ・スカルノ夫人

日時 2024年11月28日(木)

開場 17:00

講演 18:00～19:30

会場 けんしん郡山文化センター(中ホール)

福島県郡山市堤下町1-2

電話 024-934-2288

※専用駐車場はございません。近隣有料駐車場又は公共交通機関をご利用ください。

入場料 2,500円(全席自由)

※次世代の女性経営者育成のため、県内の女子学生を無料でご招待します。

チケット販売中

講師プロフィール

デヴィ夫人 フラタ サリ デヴィ スカルノ

東京都出身の国際文化人。1955年6月、母国日本のスカルノ大族と出会い、同年11月に結婚。若き大族夫人となり、日本とインドネシアの友好親善に努める。

帰国後1970年にパリにて、社交界で「麗しの真珠」と謳われた。1990年にニューヨークに移住。国際関係の専門家として活躍する。ニューヨークのグランドホテルの会長として、オランダのフットボールの発展に尽力。

現在は活動拠点を日本に置き、「デヴィ夫人」の愛称で親しまれている。2000年以降、数回で度々来日し、講演やイベントに参加。数々のメディアで活躍し、数々の賞を受賞している。他に、講演、コネクターなど多岐に亘る。最近では「デヴィ夫人」名義で、NPO アースエイド・アジアを設立。地球規模で慈善活動を行っている。

主催：一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

チケットのお問合せ 080-2671-8966

後援：福島県中小企業団体連合会

福島県法人協会 福島県商工会

福島県労働組合 福島県医師会

講演会のチラシと、民報新聞(12月27日)に掲載された講演の記事



■FJP 30周年記念特別講演会 県女性経営者プラザが郡山市のけんしん郡山文化センターで開催した「デヴィ夫人」の講演の様子。

心に残ったデヴィ夫人

からのメッセージ

なりたい自分を持ち続ける

来場者に若い女性が多くみられるが、30歳、40歳になった時、どのような人間になりたいですか？何か今のうちになりたい自分を考えて生きていますか？と問われました。人生は長いです。60歳、70歳の時にこうありたい自分を持ち続け、インスピレーション(ひらめき)を感じて欲しい。

自分是不幸だと思ふより、自分より不幸な人がいることを忘れない

自分は第二次世界大戦時に浪江町に疎開していた際に衣食住に大変苦労した。今世界中で起きている戦争に心を痛めている。

人生に目標、目的、使命感を持つて

いれば、必ずチャンスは訪れる
インドネシア大統領夫人であった際の政変でパリに亡命していた時期には、読書(主に西洋文学)や勉学に励んでいた。フランス語を勉強していたことが大いに役に立った。

人間は、生気に采配されている

肉体から気が失せることは『死』を意味する。地球も大気で包まれている。

日々の中で、やる気、元気、気を取り直す、気を立てて生きる、移り気しないなど、『気』の付く言葉を意識してみては—。

質疑応答

Q いつまでも若々しく、美しくいられる秘訣は何でしょうか？

A エステに行つたことがない。あれもしたい、これもしたい気持ちを持つことが大切。感動しないと老けてしまう。1日10回感動することがお勧めである。

Q バラエティー番組の撮影裏話などをお聞かせください。

A イルカに乗つてのサーフィン、ウェットスーツを着るのも大変だったが3日後には出来た。

Q さらに今後チャレンジしてみたいことはありますか？

A トレーニングに3年かかるが南極に行きたい。

*

最後に、未来を担う女子学生に向けてのメッセージとして「なぜか成る、なぜか成らぬ何事も」努力する事が大切と締めくくられました。ヒールで颯爽と歩くデヴィ夫人のお姿からも、モチベーション持ち続けている意識の高さを感じた。



▲ラジオ福島にて 2024.10.10

マスコミ広報：福島民報社、福島民友新聞
ラジオ福島、ザ・ウィークリー郡山
福島リビング新聞社



▲民友新聞 2024.10.10

広報活動

菊池会長・横山副会長
永峯総務委員長

講演会 エトセトラ

～運営を
振り返って～



未来のFJPの席

会場関係【事業委員会】

責任者：宮坂事業副委員長

舞台設営・進行、スクリーン映像、
照明、音響

舞台関係【事業委員会】

統括：横山副会長
責任者：三部事業委員長



楽屋準備、出演
者出迎え・誘導、
記録



おもてなしの数々を
学びました。

講演者関係【交流・広報委員会】

統括：長沢副会長
責任者：矢部交流広報委員長

受付設営、FJP ブースの運営、マスコミ
対応、電話対応

受付関係【総務委員会】

統括：野地副会長
責任者：永峯総務委員長



イベントの要！会計担当
お疲れさまでした。

2階の受付から1階のロビーまで、長蛇の列
ができるほどの盛況ぶり

2月定例会

▶腸活でコンデショニング！

女性リーダーのためのレジリエンスアップ術

株サイキンソー健康経営アドバイザー・管理栄養士 小川 静香 さん

小川 静香さんは、管理栄養士、公認スポーツ栄養士、運動医学博士号を持ち、企業の健康経営推進セミナーやトッパスリートのコンデショニング支援などで活躍中。趣味は、筋トレとトリアスロン。講演は、腸を理解し、腸を可愛がることを意識するという内容で、まずは個々に腸年齢を計算。人には肌年齢や血管年齢、体力年齢などがありますが、私（山田）の腸年齢は実年齢より10歳若いとわかり、ちよび嬉しくなりました。〆腸腸相関〆ということもよく耳にしていたので、興味深い内容でした。健康の3要素は、食事・運動・休息ですが、食事から栄養を取る場合、腸と腸内細菌が大いに関係しています。腸内環境は腸だけでなく全身の健康と密着しており、腸活をすることで髪質、肌質、ホルモンバランスの改善にも繋がります。また腸と脳は密接に連絡を取り合っているため、ストレスリスクにも影響します。

日時：2025年2月18日(火)
場所：co-ba Koriyama(郡山市)



小川 静香さん

小川さんの会社では、健康経営のススメとして、企業と共同で労働生産性向上に向けた腸活プログラムを実施した結果、仕事のパフォーマンスが上がったといえます。腸内細菌は多様性が必要なので、まずは自分自身の腸内環境を知ること。「腸内フローラ検査」を試してみてもどうかとのこと。腸内フローラを改善して腸内環境を整えることでレジリエンス（回復力）が増し、パフォーマンスが上がる可能性が大きいそうです。すべての説明が科学的で納得のいくお話でした。

3月定例会

2025年3月11日(火)
会場：郡山ビューホテルアネックス「舟津」

3月定例会は、まとめ例会として1年間の活動を振り返り、次年度に向けた提案やアイデアなど前向きな意見交換が行われました。今期をもつて退会する会員もあり、寂しい気持ちもありますが、教えていただいたことを忘れず、これからも力を合わせて盛り上げていきましょう。

▼総務委員会

・定時総会に向け準備を進めていく。
・ラインで出欠確認をしたことで簡略化できて良かった。
・新会員メンバー獲得に繋がるような移動例会や、会員以外の参加者を集め、情報交換ができるような機会を作りたい。



総務委員会



事業委員会

▼事業委員会

・デヴィ夫人講演会では、役割分担をきちんとすることで滞りなく進めることが出来て良かった。
・ボランティア活動、認知症予防講演会、助成金等の勉強会もしてみたい。

・長く経営経験がある会員の方々にもお話を聞きたい。

▼交流・広報委員会

・うでまくりは、古川様からご指導いただきながら進める事が出来た。写真を撮り忘れることがあったので今後は役割分担をしていきたい。
・認知度を高めるための外部PRを行っていききたい。
・身になる講演会が多いので、もっと沢山の方に参加してもらえようような働きかけをしていきたい。



交流・広報委員会

新会員ご紹介

有限会社きもの松川屋

代表取締役 木山侑香さん

(総務委員会)



令和5年10月、
敬愛する祖母の急
逝により、侑きも
の松川屋の三代目

として、まさか私がこの暖簾を継ぐことになるとは、夢にも思っておりませんでした。「いつかは」と思っていたものの、そのタイミングがあまりにも早く、正直、様々な思いが交錯しました。自身の将来について考え、新たなステップを踏み出そうとしていた矢先でしたし、呉服屋のことは分からないことばかりで、学ばないといけないことがたくさんあったからです。

それでも私が一歩踏み出したのは、祖母が長年にわたり築き上げてきた「信頼」というかけがえのない財産があったからです。それがあったからこそ、「なんとかなる！」と前向きに捉えることができました。祖母の築いたこの大切なご縁を、私も大切に守り、つないでいきたいと思っています。

FJPへの入会も、そんな私を心配

し、温かく励ましてくださった方々のご縁によるものです。諸先輩方の知識や経験から学び、自身の経営者としての視点を磨くことはもちろん、皆様との交流を通して、刺激をいただき、微力ながら私も何かお役に立てるよう、精一杯努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

フラワーセンターたかはし

取締役 二瓶 綾子さん

(事業委員会)



弊社は、郡山市
清水台で創業70年
の生花店を営んで
います。生花の小

売をはじめ冠婚葬祭フラワーアレンジメント教室など幅広く営業しております。私は以前から母親が当社に勤めており縁あって自身も入社致しました。今は後継者として会社の引き継ぎや経営について勉強をしているところです。今回FJPに入会させて頂き、諸先輩方から経営者としての心構えやスキルなど学ばせて頂き、FJP会員の皆様と交流を深めたいと思っています。まだまだ未熟者でございますがご指導宜しくお願いいたします。

番外編

「大山忠作美術館」見学

(2024.10.25)

FJP 理事のみなさんと、二本松市にある【大山忠作美術館】で開催されている「成田山新勝寺所蔵襖絵展」に行きました。

会場では、大山忠作ご息女・大山采子様から襖絵一点一点について解説して頂き、「大山の絵は、戦中フィリピン沖で救援が来ないかもしれない極限の中で心に焼き付けたからこそ描けたもの」「大山の絵は、地球の一部から出来ている」など、情感の込められたお話を伺いました。見学後、お食事をご一緒しながら、父・忠作氏の故郷二本松に対する想いや、活動の様子を伺い、大山氏の作品には、日本を想い、故郷を想う精神が凝縮されていると思いを新たに致しました。(佐藤 直美)



◀襖絵「日月春秋」

▼大山采子さん(中央)と一緒に



大山采子さん

●福島県の自慢
三春の滝桜

樹齢千年以上と推定され、桜の木としては初めて国の天然記念物に指定された三春町の滝桜。開花期には四方に伸びた枝から、薄紅色の小さな花を枝いっぱい咲かせ、その姿が滝のように見えることから名がついたとも言われています。この滝桜、場所によつてさまざまな表情を見せてくれますが、やはり圧倒的な美しさと存在感を感じさせてくれるのが正面。まさに天から降り注いでいるかのような幻想的な姿が見られます。しかも、いまなお毎年10〜15センチほど成長しているというから驚きです。

滝桜の古い組織は次第に腐っていきますが、それを栄養にしながら、新しい組織が成長するという新陳代謝を繰り返して、現在のような姿になったといえます。生命の力強さを感じるとともに、これからの滝桜がどのような進化していくのか楽しみです。

(渡邊 朋子)





◆総務委員会

本年度は、東京への移動例会、デヴィ夫人講演会と大きな事業がありました。移動例会では、前田めぐみ様と交流を深め、3月にアートフェアにご招待いただき、本物のアートに直に触れることのできる貴重な機会となりました。デヴィ夫人講演会では、総務委員会の力を結集させ、受付・会計業務を行いました。今年度から定例会のご案内や出欠確認をFJPグループラインで行いました。資料も事前にデータ配付し、各自印刷していただくようご協力いただきました。ご不便をおかけしたことも多々あったと思いますが、ラインでのスムーズなやりとりができることで、スピード感をもって決定できることが増えてきました。2025年はFJP設立30周年を迎えます。大きな節目を迎える年にこれまでの伝統を踏襲しながらも、新しいFJPの歴史を刻んでいければと思います。現在、第30回定時総会にむけて準備をすすめておりま

◆事業委員会

す。次年度も会員の皆さまが有意義で楽しく交流が図れる事業を計画してまいります。よろしく願います。

(総務委員長・永峯美緒)



11月28日に開催しました30周年記念特別講演会では、会員の皆様に多大なるご協力をいただき盛大に開催できましたこと、心から感謝申し上げます。事業委員会の皆様には、進行管理、舞台、楽屋、会場の各担当に分かれ、それぞれの重責を果たしていただきました。ありがとうございます。

3月29日には福島市の茶寮おろりで第3回委員会を開催し、10名が出席して新年度事業案について意見交換しました。新年度は30周年記念式典をはじめ、FJPの理念に理解を深めるための勉強会や会員同士の交流を図れるような事業を実施していきたい

と思いますので、お楽しみに！

今期で退会される横山りつ子副会長、会田和子会員、長尾千代美会員に花束を贈り、FJPの想い出話に花が咲きました。長年にわたり、会の発展にご尽力いただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもご指導のほど、よろしく願います。

(事業委員長・三浦香奈)

◆交流・広報委員会

交流広報委員会は、うでまくりの割付、原稿の最終チェックについて、全ての会員が漏れなく携わることが出来るよう、複数回に分けて行われた。3月例会前に郡山ビューホテル、18日は本宮駅前「かなざわ」、3月末には、安



積町「天心」にて打ち合わせがされました。闊達な意見が出され、ようやく決めることが出来ました。会を重ねるごとにチームワークと、各自の得意分野が

分かり、楽しく進めることが出来ました。うでまくりだけでなく、会員増員にむけ、交流広報で出来ることを話し合うことも出来ました。矢部委員長の方から、FJPのモットーも披露されました。①親睦交流 ②感性をより研ぎ澄ます ③トライ＆チャレンジとプラス思考の3つ。あとは前進あるのみ！ということので締めくくりました。

(交流広報委員長・佐藤直美)

編集後記

春になり花が優しく微笑んでいる季節になりました。メジャーリーグの開幕戦が日本で行われ更に、ドジャースとカブスの開幕投手を日本人選手が務めるという歴史的な試合となりました。大谷選手の名言に「一つひとつの積み重ねが自信になり、結果になる」という言葉がありました。日々の行動が積み重なり、自分が作られていくことを常に意識し、恥じない行いをしていきたいと若い大谷選手に教えられました。皆様、前進あるのみ。これからもよろしくお願います。

(矢部祥子)